



鍛冶屋創成塾3期生入塾式

5月8日、協同組合土佐刃物流通センターで鍛冶屋創成塾入学式が行われました。今回、新たに3期生として、3名の方が入塾されました。



▲横山尚史さん ▲伊藤正晴さん ▲富永智也さん
(大豊町出身) (愛知県出身) (四万十市出身)

行政相談委員感謝状

4月7日、令和5年3月末で行政相談委員を退任された高橋千恵さん（土佐山田町）に総務大臣感謝状が贈呈されました。

贈呈式は、香美市役所で行われ、依光市長立ち合いのもと、高知行政監視行政相談センターの兵頭所長から感謝状が手渡されました。

高橋さんは、平成27年4月に総務大臣から委嘱を受けてから、退任されるまでの8年にわたり行政相談委員を務められ、市民と行政との懸け橋として、行政に対する苦情や意見・要望などの相談を受け、解決のための助言や、関係行政機関に対する連絡調整などに尽力されました。

香美市文芸 風の流氷

◆一般投稿作品◆ 岡崎桜雲 選

山桜谷間を挟み咲きほこる 五百蔵利美
青い空ひまわり咲いて終戦日 原 茂
川底の割れ目を見せて川干かな 伊藤 清子
歴史ある校歌を知りし新入生 利根 弘子
いたどりを漬ける粗塩目分量 明石 蕙生
天空の窓よりのぞく春の海 山崎 貴子
台湾のくらしなつかし梅雨もなし 荒木 景子
初鯉客をもてなす土佐路かな 宮地 美代
富太郎名付けし桜にときめきを な ず な
うぐいすに香り託して残り梅 森本多賀子
駆け抜ける子どもの声と初夏の風 吉良 智子
紫陽花やブルーが主役今朝の庭 坂元 道子
挽たての曲り胡瓜を手土産に 大場比奈子
早ばやと目鼻へ見舞う花粉症 東 月
吊し柿うまくできればお裾分け 溝淵 龍泉
母と行くウォーキングコース初燕 吉川 恵樹
只今を呼吸して色変へぬ松 小松 美鶴
買ひ替への車決めかね春立つ日 秋山 英身

うかうかと臘月夜のマスクなし 茂野 光正
山茶花の散りて重なる駐車場 原 恭子
海風いで磯の鳥にも冬日向 秋 星
背戸に落つ木の実の音や小鳥来る 井上 佐和
灯の入れて動きはじめし雛たち 山岸 孝子
雪乗せて路面電車や土佐の国 中橋 京子
老鷹の声の親しく目覚めける 藤本すみ子

◆かほく俳句会◆
声の出で他人めきたる春ゆうべ 乾 真紀子
菜の花の段畑見えて里に着く 岡本 敏子
落ち椿寛の水を堰零す 小松 昇
田水張る手練れの畔の走る艶 佐竹 洋子
三輦の特急列車山笑ふ 杉山 春萌
硝煙の匂ひなどなく町うらら 津田吾燈人
葉先だけゆるる植田の一日目 野村 里史
こち吹くや水面揺蕩ふ花筏 古川 信子
エアコンのリモコン探す春の夜 前田 智
指踊る手話の母子や風光る 宮崎ただし
囀や山気ただよう山畑 宗石 愛喜
号令をかけてもみたき葱坊主 森本 之子
裏返る時もきらりと柿若葉 山崎かずみ
春満月初孫ぼんと生れ出る 山崎 鈴子
たんぼぼの温もり庭のそこかしこ 山中 明石

香美市森林環境税活用事業 申し込みいただいた方からの投稿を募集しています！！

かみんぐBABY木のギフト

『木のギフト』お便り紹介

りおとくん

今9カ月になり色々なものに興味が湧いています♪まだ舐めたり噛んだりするのが専門の僕ですが、お姉ちゃんと積み重ねたりして楽しく遊んでいます(^_^)



※香美市から木のギフトを受け取られた皆さんからのご感想、写真を募集しています。投稿者の氏名、写真、写真に映っている方の名前(ペンネームで構いません)、感想を、下記メールアドレスまでお送りください。

香美市の赤ちゃんに『木のギフト』をプレゼントしています。詳しくは、新生児訪問の際にお渡しするパンフレットまたは、香美市ホームページ内の特設ページをご覧ください。
【問い合わせ先】農林課林政班 ☎52-9283 ✉rinsei@city.kami.lg.jp



俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。住所、氏名、電話番号を明記してください。
▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。
▼誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。
【投稿先】総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌係」
〒782-18501 (住所記載不要) FAX 53・5958

今月のキラリ

広報委員会

初鯉客をもてなす土佐路かな
青葉のころとれる鯉が鯉のはしりだったの
で、江戸時代にそれを初鯉といつて珍重した
鯉と言えは土佐、刺身にタタキ。一句全体に
明るい季節感と、土佐人の心意気も詠われて
いる、楽しく心弾む一句。
(季語：初鯉(夏))

挽たての曲り胡瓜を手土産に
知合いを訪ねるため、土産にと、自宅で栽
培している胡瓜を数本持って行く事にした。
少し曲がつている物もあるが、新鮮さが何よ
り、挽たてである。夏の日差しと胡瓜の緑、
日常のささやかな情景と人情の機微が詠われ
ている一句。
(季語：胡瓜(夏))